



ほっとほっとタイムズ—第3号—

2024.11.29

井荻小学校 特別支援教育校内委員会

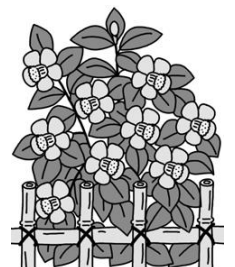
先日は音楽会にたくさんご参観いただき、また、温かい感想をたくさん寄せていただき、ありがとうございました。どの学年も、子どもたち、頑張っていましたね。子どもたちの真剣な表情、一生懸命な姿、元気いっぱいの歌声、素敵でしたね。学年全員で声をそろえ、気持ちをそろえて一つの作品を作り上げている姿って、どうして感動を呼ぶのでしょうか。たくさんの人と心をそろえてやること、自分の真剣な姿を表に出すことが、生きていく上でとても大切なことであり、またとても難しいことだということなのかもしれません。

この音楽会を通じて素晴らしく自信をつけた子が何人もいます。自分のやりたい楽器を担当したものの最初はとても無理ではないかと思われたけれど、音符をすべて暗記し、休み時間も毎回練習にやってきて少しずつできることを増やし、最後には立派に演奏して見せた子どもたち。その楽器が、目立つものであれたくさんの中の一入であれ、自分で努力をしてやり遂げた子はどの子も自信に満ちた顔をしていました。この「できなかったことが努力してできるようになる」経験こそが、子どもにとって大切なことなのです。そこに励ましてくれる大人や友達がいればその自信は何倍にもなると思います。大人の役割は、この「やりたいことに挑戦する姿」を励まし価値づけ、できるようになったことをともに喜んでやること。それに尽きるのではないのでしょうか。

一方、残念ですが、最後まで、できない自分となかなか向き合えないままになった子もいます。「めんどくさい」ももちろんあるでしょうが、本当は「できない自分」をみんなの前で見せるのが怖いのです。「がんばることはカッコ悪い」と思っているかもしれません。だから練習に参加できない、できるように努力できない、結果として「できないことがばれないように」ふるまう。そして、自信が育たないということになるのです。「人よりできることがかっこいい」と思っているのかもしれませんが、そんなことは実はちっとも価値のあることではなく、「できないことができるようになること」こそ、価値があるのです。だって、子どもは（もしかすると大人も）成長し続ける存在なのですから。しかし、子どもにそう思わせてしまうのは、子どもが悪いのではなく周りの大人の責任です。日ごろ、だれかと比べるような声掛けをしていないでしょうか。反省すべきところです。

子どもはどうやって自ら育つ力を持つのでしょうか。挑戦し失敗しながらでないと、何も育たないことは大人の私たちは経験上知っています。挑戦も失敗もエネルギーが必要です。そのエネルギーはどこから生まれるのでしょうか。おそらく、どんなに失敗しても温かく迎えてくれる存在、そして、できたことを共に喜んでくれる存在があることではないのでしょうか。私たち大人は子どもたちのそういう存在になりたい。

「子育て」はいつの時代もいくつになっても悩むことばかりです。せめて、同じ子どもにかかわる存在とともに語り合いませんか？来る12月6日金曜日、低学年の保護者会の後、短時間ではありますが、おしゃべりタイムを設定したいと思います。参加はもちろんどなたでも自由。いかがですか、少しでも井戸端会議を楽しみませんか？お待ちしております。



ほっとほっとティータイム(おしゃべり会)

12月6日(金) 午後4:00~5:00(早めに来てくださってもOK!) 場所: 特活室